

卒業生の書籍出版

東海大学創立 75 周年を記念し、原子力工学専攻 1960 年度の卒業生、川野 修靖氏（かわののぶやす氏）が「IAEA 査察官の最前線」2017 年 11 月 3 日（第 6 版）を出版されました。卒業生の中で唯一の IAEA（国際原子力機関）査察官の経験者です。

本年は原子力工学専攻、ワンダーフォーゲル創立、IAEA 設立 60 周年でもあります。

2015 年 8 月 12 日 Digital Contents 発表に続き、2016 年 4 月 5 日の初版発行以来、「カズオ・イシグロ氏とその父」の記述と「核兵器禁止」を繰り返してきましたが、本年 10 月 4 日ノーベル文学賞、5 日 ICAN 平和賞決定報道に感じるところがあります。第 6 版は、元気の出るノン・フィクション・ドキュメンタリー・ルポルタージュとして、原子力平和利用活動に資することを期待して 81 歳時に自費出版しました。

私の経験した「驚愕の事実」には、刺激的な表現を極力抑え、迫真力を求めました。

●査察時の「Serendipity」（探していた物とは別の価値ある物を見つけ出すこと）と「Intuition image memory ability」（直観像記憶力）の影響は次の 2 つです。

●1981 年 10 月 19 日、先進国 MOX 製造事実のセレンディピティに係る受容により、1980 年、既に動燃で研究開発し、照射後試験に成功した MOX のプルサーマル利用が、民間で実用化し、商業用原子力発電所にてプルサーマルを行うことが可能となります。

MOX 製造技術及びプルサーマル利用は、Pu の核兵器転用の疑念を払拭します。

2010 年に着工した、日本原燃（株）MOX 工場の竣工は、数年後の予定です。

四国電力（株）伊方 3 号機は、2016 年 8 月 22 日、仏製 MOX で運転を開始しました。

●1981 年 12 月 6 日「未知との遭遇」の先端技術の装置及びオペレーションを査察時に見た IAEA 査察官の直観像記憶力による再現を、施設者側が危惧しました。

この先端技術は、1981 年当時、先進各国が研究開発に、しのぎを削っていましたが、2017 年の現在は、金属材料を切断加工する産業技術として、世界中で用いられる公知の事実です。日本では経尿道的結石の砕石と軟性尿管鏡と組み合わせた装置が完成し、医療器具として使用されています。先端技術のオペレーションを、36 年前に目撃した「未知との遭遇」の迫真力ある状況を、簡潔に述べましたが、JAEA レーザー共同研究所で R&D 続行中の、東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンした、燃料デブリの取出し開始や、数年後に期待されるレーザー溶断や破砕法技術が「未知との遭遇」と重なり、IAEA 守秘義務遵守継続中の 36 年の時の流れに、感慨深いものがあります。

原子力の平和利用を促進すると共に、原子力の軍事的利用への転用防止を目的とした核不拡散条約（NPT）に基づく、査察活動を含む国際的保障措置等を行った、IAEA の活動が、ノルウェー・ノーベル委員会に評価されて、2005 年に、エルバラダイ IAEA 事務局長及び IAEA 組織にノーベル平和賞が授与されました。私の、全く予期しない、4 つのノーベル賞が拙書の背景を飾った事に、私はモチベーションの高まりを感じます。

◎本購入は、著者 川野 修靖へ直接ご連絡下さい。●著書の頒価は B5: 5000 円です。

●川野修靖の電子メールアドレス：n-kawano@sea.plala.or.jp